

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000056		
法人名	社会福祉法人 香東園		
事業所名	グループホーム 香東園やましな(貴船4番地)		
所在地	京都市山科区西野野色町15-88		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりが、家庭に近い生活を実感され安心して寛がれる空間作りに努め、思いに寄り添いながら個別ケアを心がけています。毎食食は、職員と御利用者が一体となって食材切りや盛り付けを行い、新鮮な旬の食材を提供しています。咀嚼・嚥下困難や減塩食が必要な方等は柔軟に対応して、食後には後片付けも一緒に行い出来る事への支援へと繋げています。ご希望や体調を確認しながらではありますが、少人数ずつ散歩や買い物支援を付き添い行っています。また時には、ご家族が参加されて会話ができる時間を設けています。入浴は、原則週2回を予定していますが、毎日利用や足浴をご希望の方には空いた時間を活用して頂いています。認知症進行予防として、公文式学習療法を設けて、個々のレベルに応じた学習内容に取り組まれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を共有する為に、事務所内に掲示して毎朝礼時に復唱している。業務中には、全職員が意識して介護ケアの実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の祭りや催し物の参加、馴染みのある店へ買い物に行っている。地域の方による、お茶会や朗読や手芸、保育園児による慰問が行われて日常的に交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の玄関には、誰でも気兼ねなく相談出来るスペースがあり、福祉用具の展示や介護相談や施設見学等を設けている。また、地域の方々を対象とした認知症研修を通して理解を得たり、地域行事に参加をして交流し貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会開催を行い、地元4学区の地域住民やご利用者の家族が参加している。ヒヤリハットや事故、苦情などもすべて報告し改善に努めている。また、頂いた意見を参考にパンフレット等の作成に反映している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	山科区担当課・担当者へ電話や面談にて不明点や疑問点を確認している。事故報告や現状を伝えながら行政との協力関係が築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、身体拘束をしないケアについて学び合っている。門扉施錠は行わず、ご利用者の意思に寄り添ったケアを行えるように努力している。ユニット会議で、ご利用者の思いに寄り添い、ケアの代替案を話し合いながら身体拘束を行わないよう取り組んでいる。		

グループホーム香東園やましな(貴船4番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会からの研修のみではなく、認知症の外部研修にも参加し、身体的・精神的虐待のないように日々のケアに努めている。ユニット会議内でのケアの話し合いでも様々な視点から話し合い、虐待のないように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意後見人制度を利用されている、ご利用者が入所されていて職員にとっても成年後見制度は身近なものになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学時や契約時に重要事項説明書に基づき丁寧に説明を行っている。締結・解約は、家族が安定した状態で契約ができるよう十分な配慮を行っている。法律の改定等は、家族に分かり易いよう書面及び口頭でも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置して、苦情、意見を訴え易いようにしている。出された意見・要望はすぐ解決できるよう職員間で話し合っている。また、面会時や家族参加の行事時に意見や要望を聞き運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員に対し、管理者よりの、個人面談を最低年1回行っている。通常業務内で、引継ぎノートや職員同士の話し合い、ユニット会議を通して現場の職員から意見や提案を聞き取る機会を設け運営状況に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は常に目の届く場所にあり、職能力給を設けている。個々の面接を実施し実践能力、委員会活動、自己研鑽などを評価し外部研修や資格取得への協力をしている。勤務表に、職員個々の希望休等が沿える配慮が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、職員一人ひとりの経験や能力を把握して、レベルに適した研修を行っている。また、法人外では研修に参加し易くする為に勤務表を工夫し作成している。		

グループホーム香東園やましな(貴船4番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内各事業所の職員同士で、合同研修を行い意見交換を通して研鑽に努めている。また、代表者は地域密着型居住系委員会の活動の中で、他法人の事業所と情報交換や勉強会を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の様子や表情、言葉や態度を感じ取りながら安心して会話を行える環境づくりに努めている。日常生活に於いて、不安事があればいつでも相談にのれる事を伝えて、安心して過ごして頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前の相談も含めて丁寧に説明や報告を行い、ゆっくりと時間をかけて話しを聴いている。不安な事やご家族の要望など、意見を伺い易い雰囲気づくりに努めて、いつでも相談にのれる事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談でアセスメントを行い、その後何が必要なのかを提案しながらサービス内容の具体化をしている。サービス導入前のサービス内容も確認して、必要とするサービスの提案ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設のケアの方針を大切に利用者と共に生活している。職員がご利用者の能力を活かして、食事準備や洗濯畳みを行い遣り甲斐を感じて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会や外出・外泊への支援を行っている。行事に、ご家族の参加を呼びかけ、ご利用者との絆を保ちながら過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が、今迄に大切にしてこられた友人や知人との関係が疎遠にならないように、面会の受け入れや電話やりとり等の支援を行っている。ご家族の協力も得ながら支援に努めている。		

グループホーム香東園やましな(貴船4番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の共通の趣味や話題を把握して、職員が間に入り交流の橋渡し役に徹することで、ご利用者同士の良好な関係が築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用途中での退居された方は、ご本人やご家族等との関係が切れることはなく、相談や支援の求めがあれば努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや暮らし方は、生活の為のアセスメントを行い家族を交えて検討している。入所後は、ご利用者や家族から希望・意向を聞き取り、介護・看護・栄養等を交えて定期的なカンファレンスの中で、希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ご利用者や家族から聞き取り、生活歴の全てを把握する努力をしている。万が一、情報不足の時は入所後に会話の中で、生活歴・暮らし方等を把握してサービス利用に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を細かく記入する事で、1日のリズムや心身状態を把握して、職員間での情報共有を行っている。定期的なカンファレンスの中で、個々の変化や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族からの意向を十分に把握し、ケア担当者が毎月末にモニタリングを行っている。カンファレンスを経て、計画作成担当者は現状に即したケアプランを3ヶ月毎に更新作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を細かく記入しながら、申し送りや連絡ノートを活用して情報を共有しケアプランの見直しに活かしている。		

グループホーム香東園やましな(貴船4番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族が、様々な要望や意見を発言できる雰囲気作りを考えて、外泊、外出支援等の柔軟対応を心かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーやレストラン等、ご本人やご家族の意向をもとに資源の活用を心がけている。また、ボランティアの方に来て頂き、お茶や朗読等を楽しんで頂いている。今後もより意向に沿った支援が行えるように努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力内科医や歯科医による、定期的な往診があり医療連携体制ができています。往診時には、できるだけご家族にも同席して頂いている。通院は、必要に応じて生活相談員が同行して日常生活の様子を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が24時間常駐していて、ご利用者の状態変化や気になる点があれば、都度報告して指示や助言を受けている。また、事故が発生した際は直ぐに連絡がとれる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	計画作成担当者が、担当医への紹介状・介護サマリー等を提出し情報共有を行っている。入院中の様子について、伺ったり病院からも定期的に情報を頂きながら、退院に向けての連携をスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成して、ご利用者や家族と事前に話しをしている。早い段階でその時々でのご家族の終末期に関する意向を確認している。医療面や介護面から話し合い、ご利用者やご家族の意向に沿えるようチーム支援を大切にしながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で、AEDの設置箇所を確認して、取り扱いについても学んでいる。職員が順次救命救急士の講習を受け、ご利用者の応急手当や事故発生時の初期対応に備えている。		

グループホーム香東園やましな(貴船4番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間や夜間想定、年2回(内1回消防署立会いの下)避難訓練を毎年実施している。参加できない職員もいるために日頃から意識して貰えるよう取り組んでいる。地域運営推進会議にて、地域住民と災害時の避難場所についての確認を話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格・プライバシーを尊重し、言葉かけ・介助の仕方・態度について職員間で確認し話し合いながら的確な対応が図れる様に支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意思を尊重し、普段の会話の中で何をしたいのかを聞きながら、自らの決定や選択をする事ができる機会をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、ご利用者一人一人の気分や体調等に配慮しながら希望を第一に考えている。マイペースで日常生活を送り、押し付けにならないよう個別性重視の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者らしい服装や、こだわりや希望等をご家族の協力も得ながら、その方らしく暮らせるように支援している。身だしなみについても、起床時や入浴後には櫛を入れたり、髭剃りやマニキュアのおしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け等、可能な限りご利用者と一緒に行い、時には外食を計画し雰囲気の違った楽しみにつながる食事となるようにしている。昼食は、ご利用者と職員が会話を楽しみながら一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少量の方には、引継ぎ等で情報共有して把握に努めている。栄養バランスについては、偏った摂取にならないように日々の言葉かけや主治医からバランスよく摂取するよう促して貰っている。		

グループホーム香東園やましな(貴船4番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後には、言葉かけや見守りにて口腔ケアを行い、義歯の方は夜間に義歯洗浄剤ポリデント使用しながら口腔内を清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、基本的にはトイレでの排泄を目標とし、意思表示が難しい方でも表情や行動から言葉かけや誘導を行っている。便通については、朝食に乳製品を加え提供し自然排便を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食には、乳製品を加えて提供している。また、体操や散歩を取り入れて体を動かしたり、排泄時に腹部マッサージを行い、しっかりと水分摂取を促している。それでも、便秘傾向の場合は主治医に相談の上で下剤の服用にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は基本固定しているが、個々の体調や希望により変更したり、入浴拒否の場合は、無理強いせず時間をずらして支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況を把握し、体調や希望に応じ自由に休息して頂いている。日中適度な活動を促し、生活リズムを作ることで安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、職員が把握して何時でも確認できるようファイルに保管している。変更があった場合は、主治医や薬剤師に助言・相談を行いながら把握に努めている。誤薬防止に毎回、日付や名前や分量を2名の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者、個々の生活歴や得意な事を把握し、役割が持てる場を作り出せるよう努めている。外出、行事等に参加することで気分転換となるように支援している。		

グループホーム香東園やましな(貴船4番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて、近所へドライブ、買い物、散歩、外食、行事毎の外出等支援をしている。施設敷地内にある喫茶店に出かけたり、年間行事の花見に出かける機会もあり。個々の体調に合わせて外出の楽しみを支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、現金は事業所にて預かり管理をして、買い物等の際には手渡している。ご本人の能力や希望に応じ、自己管理を行っている方も居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者は自由に事業所内の電話を使用する事ができて、携帯電話を所持している方も居られる。手紙は、ご希望があれば便箋の準備や代筆の支援を行い、ご家族との絆を維持している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画を飾り、観葉植物等を置き暖かい雰囲気にならしている。テーブルやソファを共用空間に設置して、好みの場所で過ごせる場となっている。季節を感じて頂けるように、四季折々の飾りをご利用者と職員と一緒に作成して工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士で過ごせる、テーブル席やソファを設置したり集団が苦手な方でも寛げる、居場所があり思い思いに過ごされている。独りになりたいと思われた時は、居室で過ごす配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やご家族の手紙、レクリエーションで作成した装飾品等の物をご家族の協力を得ながら飾っている。馴染みの物がある事で安心して過ごして頂けるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内は、バリアフリーで安全な環境を整え、通路には手摺りを設置している。日常生活内で、自立した生活が送れる環境づくりに努めている。		